

たのしいおしごと帖について

お茶の水女子大学
幼稚園 主事

及川 ふみ

幼児の製作の材料として粘土、紙、木、自然物、など今一般に用いられているものの多くは、いづれもその始めは幼児たちの自然の遊びの間に、いく度か面白く繰り返かえされ、楽しく使われたものである。私共大人はこれによつて教えられるところが多かつたのである。

粘土などについて考えても、幼児の外遊びの間に土や泥、小石や砂など、よるこんでもてあそぶところより、この遊びを充分に満すために砂場として家庭や幼稚園、保育園などに用意されたものである。砂場の遊びがさらに進んで製作的

て今多く使われている。粘土はことに幼児の立体的表現が容易に出来る点で、製作のはじめから使われる最もよき材料の一つとなつてゐる。

紙仕事も粘土同様に、幼児たちの室内遊びの自然の間に手近にある紙や新聞紙などをむしつたり、或は紙の上に、クレオンや鉛筆で絵をかくて遊んだり、或は折つたり、たたんだり、さらに進んでは画いたものを切りぬいて遊ぶことに興味のあるところから、大人たちが製作のよき材料としての自信がもたれたとも云えるのである。

幼児たちによつてえらび出されたこの

よき製作の材料を如何に幼児たちに指導して、その製作の本来の目標を達する様にすることが考えられなくてはならないと思われる。

紙仕事の指導の一つのあり方について考えて見ると、幼児たちは四五才位になるとさきにもいつた如く、紙や鉛筆、クレオン、鉄とこれ等をもつて遊ぶことに興味が出て様様のものを作りはじめが、はじめの間は多くの場合ほとんど平面的のものが多く、草花や樹木、人物や家、或は動物や乗物などと題材は相當に広い範囲にわたるが、それ等を書き、色をぬり、きりぬく程度で終ることが多い様である。幼児の自身で作れる基礎的材料を今少しの誘導と指導とによつて、立体的の表現となつたり、或は簡易なおもちゃとして幼児の使えるものにもすることが出来るところまで進めてゆかなければならないのではなからうか。

自分たちだけで作つた草花が花かごにさされるよろこびをもたせる為に簡易な

かこの製作を指導したり、かきばなし、切りばなしの樹木の根元に副木をして立たせることを指導したり、或は動物などの形を紙を二つ折にして画きそれを切りぬいて、立体的な感じを表現することを誘導することなど、幼児と一緒に紙をいぢり紙をもち糊をもつ間に様様のよき機会のあることを見のがしてはならない。

ここにほんとの意味の製作指導の要があるのではなからうか。幼児だけの単純な創作を基本として、それに誘導と指導のあるものが加えられ、より具体的なものより立体的な表現に進み、幼児たちの求めてあたわらないものを補つてそのよここびを満足させなくてはならない。これがひいてはほんとの意味での創作への指導

のいとぐちともなるのであつて、自分自身で工夫する機会を作ることにもなるのである。「たのしい おしごと」はこの意味から試みられた紙仕事の指導の一つのゆき方である。幼児一人一人の能力に応じた表現を、充分に満すとともに、こ

れに多少の大人の助けを加えて、幼児たちの求めるおもちゃを作るといふ、幼児と大人との共同製作である。しかもこの大人の手助けの部分を出来るだけ少くし出来るだけ簡易なものを材料としてえらぶことにめやすをおいて作られた。もとより幼児一人一人の活動する部分の多いことはいうまでもないことであるが、現在一般の幼稚園や保育所で一人の指導者に対して多数の幼児を受持たれる実情からこの点も合せ考へたからでもある。

は考へて配べたものであるが適当に前後され、或は別の紙によつて幾度か繰りかえされて使われることも考へてもらいたい。

製作だけのことではない問題であるが、入園最初の子どもの気持を楽に気安くするために、幼稚園でのいろ／＼の遊びがなければならぬ。職業的の気分を作らない様に工夫することを考へたい。ことに最初の一二度の材料の取扱ひ方にとくに最初に注意して、例えば、風車やコマなどは普通幼児には親しみのあるものであるがこれもいきなりこれによらず別に風車やコマを先生或は前から在園する幼児たちによつて作られたものを新人幼児親迎の意味でおもちゃとして与えて遊ばせて風車やコマなどについて親しみが出来たその後この材料をもち出すと気安に最初の紙仕事に入られるわけである。

このおしごと帖が名実ともに幼児たちのたのしいものとして使われる様に、その材料の取扱ひ方に工夫があつてほしいと望まれると同時に、たりないところなど適宜に取捨されて試みられることをのぞんでゐる。尙順序などについても一応